

タイトル	<p>次期計画：</p> <p>(参考)【第3期】「人」と「食」がにつながる北アルプス山麓の農業農村 【第2期】北アルプス山麓の恵みを活かした農業農村の振興 【第1期】北アルプス山麓に輝くブランド農業の振興</p>
------	---

項目	内 容		
取組状況と主な成果	[重点取組1] 北アルプス地域の農業を支える担い手の確保・育成		
	取組	成果と課題	令和3年度実績
	「人・農地プラン」の策定	全市町村で策定 令和3年度末までに実質化	33 地区
	農地の利用集積	大規模稲作法人を中心に利用集積が進展	3,015ha (集積率 54.7%)
	新規就農者の確保	45 歳未満就農者の確保が進まない	4 名
	[重点取組2] 新技術の活用、高付加価値化、農地整備による競争力の高い水田農業の推進		
	取組	成果と課題	令和3年度実績
	水稲直播栽培	・直播栽培技術の普及 →雑草イネの防除対策が課題	2.6ha
	高密度播種育苗、精密田植技術の普及	・育苗箱の削減等低コスト栽培を推進	225ha
	ICT 技術の普及	・水稲の効率的な生産安定技術の導入 (ほ場毎に葉色をセンシングし、品質、収穫量の測定と施肥量の調整)	現地実用化 試験 2 回
	安全・安心な売れる米づくり	・「信州の環境にやさしい農産物認証」が普及し、ブランド米、ふるさと返礼品、輸出の取り組み等活用が拡大	29 件 (147.5ha)
	酒米の品質向上と生産安定	・長野県オリジナル品種「山恵錦」の普及 一方で、酒米は生産が減少傾向にあることから契約動向に対応した生産の支援が課題	25ha 183ha
	大豆の品種転換	・機械収穫適性の現地試験の結果により、現在の統一品種「すずほまれ」から、優位性が認められた「すずみのり(東山231号)」への切り替えが今後見込まれる。	—
	水田への高収益作物の導入	・ほ場整備事業の推進と併せ、意欲ある担い手の経営状況に応じた導入作目の検討と、生産安定に向けた支援が必要	—
	次世代を見据えた農地の条件整備	・経営体育成基盤整備事業の実施(H30~R3 67ha) ・生産性向上に資する自動給水栓を設置 (H30~R3 63基)	24ha(着手面積) 12 基

[重点取組3] 実需者ニーズの高い園芸作物の産地づくり

取組	成果と課題	令和3年度実績
りんご低樹高栽培の推進	・低樹高で受光体制を良くする栽培技術により良品質安定生産を推進 →極度なわい性台木による高密植わい化栽培については積雪や防風対策、土壌条件等を考慮し今後検討	—
りんごオリジナル品種の導入推進	・シナノリップ等の長野県オリジナル品種を中心とした新改植更新等の推進が必要	—
ワイン用ぶどうの栽培推進	・ほ場整備事業と併せて計画的に団地化した取組が進展 →新たな担い手による安定生産とワイン醸造の取組に対する支援が必要	30ha
加工・業務用野菜	・水田転作品目として、ジュース用トマトやタマネギ等の導入を推進 →徹底した排水による湿害の防止対策や、病害虫の防除、日焼け防止対策等による生産の安定化が課題	12ha

[重点取組4] 北アルプス山麓ブランド等を活用した地域振興

取組	成果と課題	令和3年度実績
北アルプス山麓ブランドの推進	・認定品目数が拡大	123品目
6次産業化の推進	・総合化事業計画の認定	5件

[重点取組5] 多彩な観光資源を活用した食の地消地産と食育の推進

取組	成果と課題	令和3年度実績
JAと観光協会等による食材供給の試行の取組	・松本地域の野菜バスシステム試運転の取組みに繋がったものの、新たな受注発注システムの構築が課題	—
食育の推進	・農村生活マイスター等地域の担い手が学校への給食食材供給や農業体験プログラム等食文化の継承等に取り組んでいる →継続に当たり、生産者の高齢化や学校授業での位置づけが課題	—

[重点取組6] 暮らしの場としての農村振興

取組	成果と課題	令和3年度実績
農地等の保全活動	・農業・農村の多面的機能を支える協働活動が進展	3,920ha

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">主な課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業の担い手の減少及び高齢化に伴う農業生産力の低下 ・ 米生産が主力である産地構造と米価の低迷による農業産出額全体の減少 ・ 基盤整備の実施にともなう生産コストの削減と高収益作物への転換 ・ 集落ぐるみでの活動の減少に伴う農村コミュニティの減退 ・ コロナ禍による需要の減少に対応した新たな需要開発と販路の開拓 ・ 生産者が高齢化する中、若者への食文化の伝承等の取組の継続 																										
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">めざす姿</p>	<p>(1) 産業としての農業の振興</p> <table border="1" data-bbox="288 477 1436 1034"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">項目</th> <th style="text-align: center;">めざす姿</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>担い手の育成</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域農業を支える経営管理能力に優れた集落営農組織の継承者が確保されている。 ・ 多様な担い手（移住者・高齢者・女性農業者等）が活躍する場づくりが確保されている。 </td> </tr> <tr> <td>米の需要に応じた生産体制への転換と水田農業経営の安定化</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者から選ばれる付加価値の高い米が生産されている。 ・ 低コスト・省力化技術（先端技術 ICT・直播・畔畦の省力管理技術・経営シミュレーションによる効率的な労力配分等）が普及、定着している。 </td> </tr> <tr> <td>水田への園芸作物等の導入</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収益性の高い品目（白ねぎ・アスパラガス等）の栽培面積の拡大と安定生産がされている。 ・ ワイン用ぶどうの産地化と6次産業化によるワインの生産が進展している。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 暮らしの場としての農村振興</p> <table border="1" data-bbox="288 1090 1436 1395"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">項目</th> <th style="text-align: center;">めざす姿</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農地の利用集積の推進</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担い手や中核的経営体などへの農地の集積が進展し、地域計画に基づく適切な農地利用が行われている。 </td> </tr> <tr> <td>農作業体験、オーナー園、農産物直売所等の拡大</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光等との連携による取り組みが進展し、地域振興に貢献している。 </td> </tr> <tr> <td>農業基盤・農村資源の維持</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本型直払いの活用等により農地及び農村の景観が保全されている。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 生産と消費を結ぶ信州の食の展開</p> <table border="1" data-bbox="288 1449 1436 2007"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">項目</th> <th style="text-align: center;">めざす姿</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域特産品の掘り起こし</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の優れた特産品が北アルプス山麓ブランドとして認定され知名度が向上している。 ・ 北アルプス地域で生産された農畜水産物を活用し、6次産業化により新たな特産品が開発されている。 </td> </tr> <tr> <td>農産物直売所の機能強化</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校給食や飲食店等へ地域食材の供給体制が構築されている。 ・ SDGs やエシカル消費への関心が高まり、地元産農産物の購入が拡大している。 </td> </tr> <tr> <td>販路の拡大</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ マーケットニーズの多様化に対応した流通販売がされている。 </td> </tr> <tr> <td>食文化の伝承・継承</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農作業体験や食育を通じ、次代の担う若者への北アルプス地域の食文化が継承されている。 </td> </tr> </tbody> </table>	項目	めざす姿	担い手の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域農業を支える経営管理能力に優れた集落営農組織の継承者が確保されている。 ・ 多様な担い手（移住者・高齢者・女性農業者等）が活躍する場づくりが確保されている。 	米の需要に応じた生産体制への転換と水田農業経営の安定化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者から選ばれる付加価値の高い米が生産されている。 ・ 低コスト・省力化技術（先端技術 ICT・直播・畔畦の省力管理技術・経営シミュレーションによる効率的な労力配分等）が普及、定着している。 	水田への園芸作物等の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収益性の高い品目（白ねぎ・アスパラガス等）の栽培面積の拡大と安定生産がされている。 ・ ワイン用ぶどうの産地化と6次産業化によるワインの生産が進展している。 	項目	めざす姿	農地の利用集積の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担い手や中核的経営体などへの農地の集積が進展し、地域計画に基づく適切な農地利用が行われている。 	農作業体験、オーナー園、農産物直売所等の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光等との連携による取り組みが進展し、地域振興に貢献している。 	農業基盤・農村資源の維持	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本型直払いの活用等により農地及び農村の景観が保全されている。 	項目	めざす姿	地域特産品の掘り起こし	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の優れた特産品が北アルプス山麓ブランドとして認定され知名度が向上している。 ・ 北アルプス地域で生産された農畜水産物を活用し、6次産業化により新たな特産品が開発されている。 	農産物直売所の機能強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校給食や飲食店等へ地域食材の供給体制が構築されている。 ・ SDGs やエシカル消費への関心が高まり、地元産農産物の購入が拡大している。 	販路の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・ マーケットニーズの多様化に対応した流通販売がされている。 	食文化の伝承・継承	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農作業体験や食育を通じ、次代の担う若者への北アルプス地域の食文化が継承されている。
項目	めざす姿																										
担い手の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域農業を支える経営管理能力に優れた集落営農組織の継承者が確保されている。 ・ 多様な担い手（移住者・高齢者・女性農業者等）が活躍する場づくりが確保されている。 																										
米の需要に応じた生産体制への転換と水田農業経営の安定化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者から選ばれる付加価値の高い米が生産されている。 ・ 低コスト・省力化技術（先端技術 ICT・直播・畔畦の省力管理技術・経営シミュレーションによる効率的な労力配分等）が普及、定着している。 																										
水田への園芸作物等の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収益性の高い品目（白ねぎ・アスパラガス等）の栽培面積の拡大と安定生産がされている。 ・ ワイン用ぶどうの産地化と6次産業化によるワインの生産が進展している。 																										
項目	めざす姿																										
農地の利用集積の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担い手や中核的経営体などへの農地の集積が進展し、地域計画に基づく適切な農地利用が行われている。 																										
農作業体験、オーナー園、農産物直売所等の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光等との連携による取り組みが進展し、地域振興に貢献している。 																										
農業基盤・農村資源の維持	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本型直払いの活用等により農地及び農村の景観が保全されている。 																										
項目	めざす姿																										
地域特産品の掘り起こし	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の優れた特産品が北アルプス山麓ブランドとして認定され知名度が向上している。 ・ 北アルプス地域で生産された農畜水産物を活用し、6次産業化により新たな特産品が開発されている。 																										
農産物直売所の機能強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校給食や飲食店等へ地域食材の供給体制が構築されている。 ・ SDGs やエシカル消費への関心が高まり、地元産農産物の購入が拡大している。 																										
販路の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・ マーケットニーズの多様化に対応した流通販売がされている。 																										
食文化の伝承・継承	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農作業体験や食育を通じ、次代の担う若者への北アルプス地域の食文化が継承されている。 																										

[重点取組1] 北アルプス地域の農業を支える担い手の確保・育成

- ◇新規就農者（45歳未満）及び中核的経営体の確保・育成
- ◇地域計画（人・農地プラン）に基づく担い手確保と農地集積の推進

[重点取組2] 新技術の活用、高付加価値化、農地整備による競争力の高い水田農業の推進

- ◇需要に対応した米生産の推進（飼料米、加工用米等）
- ◇地域に適応した水稻の県オリジナル品種（山恵錦）の導入推進
- ◇水稻の低コスト・省力化栽培技術の導入推進（ICTの活用による生産の効率化、高密度育苗技術等）
- ◇酒米等の品質向上対策と契約栽培による経営安定
- ◇信州の環境にやさしい農産物認証制度、長野県原産地呼称管理制度等による付加価値の高い特徴あるコメづくりの推進
- ◇次代を見据えた農地の条件整備の推進（区画拡大、自動給水栓設置等）
- ◇そば、大豆、小麦等の生産安定と水稻との輪作の検討、推進

[重点取組3] 実需者ニーズの高い園芸作物の産地づくり

- ◇りんご県オリジナル品種を中心とした新改植更新等の推進
- ◇土づくりによる生産基盤の整備と生産安定
- ◇水田への園芸品目等高収益作物の導入推進と必要な支援を実施
（重点品目：白ねぎ、アスパラガス、ミニトマト、にんにく、生食ぶどう（シャインマスカット））
- ◇加工業務用野菜の導入・生産拡大（キャベツ（葉洋菜）、ジュース用トマト、たまねぎ等）
- ◇水稻育苗ハウスの後利用による園芸作物の生産拡大（ミニトマト等）
- ◇シクラメン等花き類の品質、生産性の向上

[重点取組4] 暮らしの場としての農村の振興

- ◇農村の多面的機能を維持するための、地域住民、企業等多様な主体の参画による地域ぐるみの協働活動の支援
- ◇集落ぐるみで行う野生鳥獣対策への支援
- ◇農業水利施設の長寿命化対策による農業用水の安定供給と水田営農の支援
- ◇地域資源を観光等に活用した農村ビジネスの展開

[重点取組5] 北アルプス山麓ブランド等を活用した地域振興

- ◇北アルプス山麓の立地条件や特色を活かし生産された農畜産物や加工品の認定の推進
- ◇北アルプス山麓育ちの製品の輸出に取り組む事業者の支援

[重点取組6] 多彩な観光資源を活用した食の地産地消と食育の推進

- ◇地元農産物の利活用促進を図るため、農産物直売所の機能強化による学校給食等への食材供給体制の構築支援
- ◇直売所を核として、食の地産地消などエシカル消費の推進
- ◇栄養教諭との連携による学校等での食育の推進